

ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌

Take free!

# なひ

6月号  
vol. 136



特集

区界浄土  
ニシナリパラダイス

「人相学との記載あり」  
聖天下2丁目付近にて撮影

私が今立っているのは、母校・市立加賀屋小  
学校の校舎前。東西を走る南港通りと交差す  
る八尾線および新なにわ筋に囲まれた台形状  
の区画にある。校舎の東には2階建てのなか  
り古い木造文化住宅10軒ほど並んでいる。文  
化住宅には珍しいベランダが設置され、壁面  
のデザインもちょっとモダン。隣の不動産屋  
の主人によると、この住宅は50年前に建てら

地図帳の凡例では、市区町などを分  
ける境界線を「市区町村界」と称し、二  
点鎖線（――）であらわす。西成区は  
6つの行政区（大正・浪速・天王寺・阿倍  
野・住吉・住之江）と接し、西は木津川、  
東は上町台地、北は鉄道ターミナル、南  
は港湾部に誘導する動線をもつ街であ  
る。『なび』創刊当初「にしのりの境界線」  
というシリーズを掲載した。西成に接  
する境界線上に何かを発見する試みだっ  
た。そしてあらためて境界シリーズ「区  
界浄土 ニシナリパラダイス」を考え  
てみた。

区界線プロジェクト  
佐々木敏明／安田拓也



商店街近辺：（左上下）木造文化住宅（右上）地元の銭湯（右下）北一本通商店街（南側より）

れた賃貸住宅で、今は階下の5所帯のみ入居  
しているらしい。港湾関係や造船業が盛んな  
時代には、工員たちの住居として盛んに利用  
され、金ヶ崎から来る労働者も住んだという。  
周辺には、屋根が波打つ老朽化した文化住  
宅が目新しい住宅やマンションの間を縫うよ  
うに残っている。主人の話題は生活保護費に  
急旋回する。「4万円の住宅扶助が基本だが、  
3万そこそこの物件に4万円きつちり受給者  
から抜き取る同業者、それをしっかりと精査で  
きないでいる役所、はたまた最近の生保者・生  
活保護受給者」は贅沢になり、滞納が当たり前

**故郷にはりついた思い出**  
私の旧姓は「前川」。お察しのとおりワケあ  
りだが、祖母の逝去が、もう一つの故郷であ  
る前川商店を訪れるきっかけになった。久し  
ぶりのお店では、跡継ぎとして店に立つ私の  
父・英生と叔母・直子、そして雨の日もパンや  
お弁当の配達に自転車奔走する、御歳91の  
卯一が、昔と変わらず日々奮闘していた。  
住之江区は、埋立地に設けられた南港の設

になるなどタチの悪い奴が多い」と辛らつた。  
「確かにそれぞれの立場によって非対称な視  
点はあるけど、この人はみんな非難の対象に  
してるね」と佐々木が笑っていた。  
東に向かうと「北一本通商店街」に出る。い  
わゆるシャッター商店街で、店舗のあいだに  
住宅が建ち始め、「住宅地」へ塗り替えられよ  
うとしている雰囲気を感じた。祖父が営む「ロ  
ンドン前川商店」は、この商店街の一番奥手  
の北角に面して建つ。西成区と住之江区の区  
界に最接近した場所でもある。  
今回の区界浄土は極私的。「まちと人と家  
族」に真っ直ぐ向き合った祖父・前川卯一と  
いう商売人の人生譚である。



特集

# 区界浄土 ニシナリパラダイス

5 まち・ひと・家族と商売人魂

スが釜ヶ崎からの工員を運んだ頃には、新聞や缶コーヒーも提供。以前、近所にあった写真学校（2007年東住吉区に移転）の生徒達が飽きないように、オリジナル弁当のメニューも増やし、工場で働く人には品数やボリュームでサービスした。大きな看板を持つチェーン店ではできない荒業だった。

父・英生の跡継ぎ問題もあった。祖父の世代は徴兵を恐れて、子どもの大学進学を後押しした。そのため英生は大手商社や金融会社にも憧れたが、祖父・卯一の思いを汲み、跡を継ぐ決意をした。今は叔母の直子と店を支え



前川卯一：写真学校卒業生による肖像写真

置に伴う人口増加によって、1974年に住吉区から独立した。お店周辺のまちを見渡すと、西成・住之江区を南北に貫く府道29号線（新なにわ筋）から木津川方面に向くと、南津守から続く工場地帯、とりわけ目立つ造船所（西成区にはサノヤス造船、北加賀屋には名村重機船渠跡、それら工場地帯に付随する社員住宅、そしてランドマークの煙突がそびえ立つ大阪市八尾市・松原市環境施設組合住之江工場がある。昔は空気が悪かったと当時の繁栄を懐かしむように父が語ってくれた。先述の文化住宅には内風呂がないので、銭湯も多くあったようだ。向かい角には喫茶店があった。区界の住之江区側には朝鮮学校があり、子ども時分は「クラスに中国やベルの血の流れる友達はいるのに、なぜ朝鮮の子は別の学校に通うのか」と不思議に思っていた。

「ロンドン前川商店」は、このまちを語るに欠かせないこれらの場所に、焼きたてパンやお弁当を届けている。南港まで単車を走らせた時期もあったそうだ。私も子どもの頃、両手一杯に一斤の食パンを抱え、その上に牛乳パックを父に載せてもらい、近所の喫茶店まで配達に行った。喫茶店のママが「いつもあ



工場集積地：(左上)サノヤス造船(右上)名村重機船渠跡(左下)工場群と社宅(右下)環境施設組合住之江工場と煙突

りがとう」とドアを開けてくれたのをよく覚えている。だから商店街を通れば、そこかしこから名前を呼んでももらえる、ちよつとした有名人だった。これは本当に家族に感謝したい。この頃の経験や記憶が、人とかかわりの大切さとして今も私の根底にあることは間違いない。

## 「ロンドン前川商店」の奮闘

卯一は昭和元（1926）年の京都生まれ。戦争を知る人だ。卒業後3年間西陣織・友禅

ている。父との僕の思い出は、朝パンが焼き終わると、まだ布団の中の僕たち兄妹を「いくど〜!!」と大声で起こし、毎日近くの南津守のグラウンドでやったキャッチボール。今はつきり覚えていてる。

## 商売の秘訣は笑顔

「商売は、味方は作っても、敵は作ったらあかん」。祖父の言葉が印象に残った。先述の写真学校とは卒業課題のモデルに選ばれるくらい連中に溶け込んだ。また、青年期のスラズバンドの経験から好きな音楽で商店街や地域の人達を引っ張りこみ、定期開催しているカラオケ会は今年でなんと18年。ちよつど僕がこの家を離れた頃と重なる。

他店が閉店を余儀なくされるなか、今もなおこの店が続いているのは、ひとえに家族やお客さんの「笑顔」なのだろう。3人のお客さんへの対応がとても優しい。「これはお二人にもしつかり引継がれているね」と佐々木は話す。

ここからは私見。地域での商いには、地域で暮らすことの本質が詰まっている。最近「まちでくらす」とは何かを考える。これは、特定

染の丁稚奉公へ。17歳から3年間は会社に勤め、スラズバンドも経験した。太平洋戦争で徴兵され、敗戦後は瀬戸内海の機雷掃海のため船舶免許を取り、6年間海上生活を送る。現在の私と同年齢の29歳だった昭和29年、給食会社から店舗を任される。翌年5月に祖母と結婚。その後独立し昭和41（1966）年に「ロンドン前川商店」を開店した。

お店の着想を得たのは、卯一と友人が30代のころパン文化の進む英国ロンドンに視察に行ったときのことだった。クロワッサンに野菜などを挟んでオシャレに食べる光景を目の当たりにした。製パン屋の名称は、そのときに見た衛兵の勇ましさを称え、「ロンドン」をその名に刻むことにした。「ロンドン」は順調に事業を拡大し、複数の店舗を経営していたので、知っている高齢の方もいるかも知れない。しかし大規模店の台頭により、ご多聞に漏れず、1970年代から多くの店舗が閉店に追い込まれた。

ここから、祖父・卯一の奮闘が始まる。

常にお店の評判アップを目指し、顧客ニーズに応えて駄菓子や菓子パンから手作りパン、手作り弁当と様々な商品を提供してきた。パ

の地域に帰属しない現代の生活様式への問いだが、「0にはならないビジネスのリスク」と住民の「なんとなく不安」は本質的には同じで、商いや事業とは、地域にあるリスクに主体的に取り組むことではないかと思う。それは地域住民と関わることに他ならない。全てのひと「善し」とはならないが、手を変え品を変え奮闘する。祖父や父、叔母ら家族の背中を小さな頃に見られたのは、僕にとって何よりの学びであり、強さである。

文責：安田拓也 監修：佐々木敏明



(左上)創業50周年(右上)焼きたてパン(左下)昔と変わらぬ調理場(右下)お客さんと祖父と叔母



子育てに取り組む人・団体・施設を紹介して、子どもを支えるネットワークをどんどん広げていきます！

## 日本とアジアの子どもたちにスキルを！



にしなり隣保館で2017年度の夏・冬の長期休暇に、子どもの居場所事業で協力いただいたFAIRROAD代表の阪上由香さんに、事業紹介をお願いしました。

### 誰でもいつでもチャレンジできる 社会を創りたい

FAIRROADは、どんな環境で生まれ育ってもフェアにチャレンジできる社会を目指すNPO団体(2012年設立)です。これまで活動していた団体の活動の一部を引き継ぎ、日本、タイ、ミャンマーを活動範囲として、難民キャンプや山奥の村、巨大なスラムに暮らす人びとと交流し、現地に赴く「スディツア」も毎年実施しています。

### 「成功・失敗・大人」のハードルを下げる

ゆくとあいで行っている「やってみよう屋」事業は、①「文化(音楽や軽食や文化体験)」の提供による支援と、②ソーシャルワーク(経済的虐待の発見等)による貧困支援の2つの直接的意味があり、これらが中退・貧困予防につながります。そして、居場所内の文化体験や人との関わりの中で起こる「小さな成功」と「小さな失敗」の積み上げが「成功」というプロセス「失敗への恐怖」といったハードルを下げ、自己肯定感を高め、文化的資源の獲得になります。

また、家庭での親(保護者)、学校での先生(教育者)という「縦関係の大人」ではなく、居場所のスタッフという「斜め関係の大人」との気楽な会話や関わりが、大人との間にあるハードルを下げ、社会関係資源へと繋がりが、ゆるやかに自立するスキルが身につくと考えています。

### 「やってみよう屋」で体験を経験に

「やってみよう屋」では毎回テーマを決

#### FAIRROAD

HP: <http://fairroad.org/>  
facebook: <https://www.facebook.com/fairroad.can.change.the.world>  
Mail: [info@fairroad.org](mailto:info@fairroad.org)



【沖田一志】散髪に行ってきました。私が高校時代からずっと通っている理髪店の店主は自分の親世代で、息子は自分と同世代、孫2人が我が子と同年。いつまで店が続くのか、少し心配です。



【佐々木敏明】恋亡霊連日が成就さまたげる黒猫らの行列を待ち春遠巡春去るは吾が霊肉の尽きしゆえ



【田岡秀朋】ロシアW杯が始まる。強豪国や日本も気になるけれど、高槻市(35万人)とほぼ同じ人口が33万人の国アイスランドにも注目したい。



「やってみよう屋」の午後の風景



「やってみよう屋」の午前の風景



メラ難民キャンプ内の図書館で子どもたちと交流

# お風呂さん ものがたり

『西成区 銭湯』と検索すると、20件以上がヒットする。その数は他の地域と比べても群をぬいて、「西成は銭湯多いなあ」という声をよく聞く。そこで、それぞれの銭湯の特徴やオーナーのこだわり、歴史などを取材し、西成区の銭湯の魅力に迫っていく。少し銭湯に行きたくないコーナー。

## 三軒目 七福湯

地下鉄花園町駅から徒歩西へ約7分、住宅や商店街が建ち並ぶ下町にある銭湯。ビル風の外観で、道路に面した側とそうでない側の二箇所に入り口がある。フロント式で、脱衣所も今風の内装。浴室も新しい雰囲気。奥の少し高くなった場所に別料金のサウナを設置している。水風呂も広めでしっかりと冷却されている。湯上がりの飲み物販売もある。

「お風呂やさんものがたり」第3回は七福湯を取材し、代表の花谷貴美子さんにお話をうかがった。

七福湯は1975年に開業し、今年で43年目を迎える。花谷さんは5代目代表。初代は広島で石屋呂屋さんが繁昌するということがあって、仮の風呂屋を営むことにしたそうだ。そして、大阪で今の七福湯を購入し、石屋さんからお風呂屋さんへと本格的に転業したという。「七福湯」という屋号は当時から変わることがなかった。

## 辻 美代子(つじ みよこ)さん

今月のおとなりさんは、辻美代子(つじみよこ)さん。にしな隣保館「ゆ〜とあい」の会員さん。京都に生まれ、17歳の時に単身で西成区に來られました。これまでの人生でたくさんの苦勞もしてきたという辻さん。今は、ゆ〜とあいに通ってカラオケサークルと折り紙サークルで楽しく活動されています。ゆ〜とあいで色々な人たちと出会い、一緒に活動していると、毎日新しい自分を発見できるそうですよ。今回は「人生いろいろ」なおとなりさんのご紹介でした。

1989年に改裝し、以来10年に1回は改裝している。当時、どの浴場も10年続くと良い方だと言われていたのに、長くできるような作られていないのが普通だった。それが43年と4倍以上続くというのは、なんとも凄まじい。利用客について尋ねると、昔はお盆や正月はなんと1000人以上の利用客があったそうだ。銭湯で1000人以上とは想像もつかなかった。しかし、今では一日100人以下の時もある。利用人口の減少やスーパー銭湯の普及、デイサービスの利用などが背景にあるという。

七福湯にはすばらしいサービスがある。なんと、土曜日限定で小学生・幼児は無料になる。子どもたちも気軽に銭湯に入れるし、子育て世代にも非常にうれしいサービスだ。

七福湯の名物は、「炭酸温泉」。業者から炭酸ガスがでると教えても



らったので、七福湯の目玉となるよう温泉に取り入れたそうだ。心臓に負担をかけずに体を温めることができるという効果がある。ぜひ、皆さんにも体験してほしい。

住所：西成区旭2丁目6の23  
電話：066515265  
営業時間：16:00～23:00  
定休日：毎週日曜日  
料金：大人440円・中学生300円・小学生150円・幼児60円・サウナ100円

## 6月 2週

まいどおきに

ハナレバナレになった人とまち。くらしの窓から、紡ぐヒントを探してみる。

近所の商店街は賑やかで、古いお店もスーパーも数年ごとと増えた介護ステーションもあって、自転車をついて降りてしまうほどの人だかり。他方で「シャッター商店街」といった言葉が世間で飛び交うようになって久しいけれど、その差は何だろう。

地元商店が閉店する理由の一つに大型店の影響がある。元々は地元店と大型店が話し合うための法律があったのだが、経済循環を優先させて店舗の広さの規制を無くした「大規模小売店舗立地法」ができた。大型店にはいろいろとメリットが多かった。そして商店街や駅周辺の市街地から人がいなくなるのを防ぐ「中心市街地活性化法」ができ、さらに大きな都市の生活しやすい環境づくりのための「改正都市計画法」ができて、もって「まちづくり三法」と呼ばれている。でも、これら三法があるからといって、どこもかしこも元氣なわけではない。

この商店街が賑やかなのは、シンブルに「顔が見える関係が続いている」からなんじゃないか。関係を継続させる難しさはあるが、店主の「なんとか続けたい」という思いは、顔の見えるお客さんの存在があるからだと思ふ。



商店街アーケード



【寺島史視】府連青年部が、大阪府下6つの太鼓集団で結成された和太鼓ユニット「絆」のメンバーを講師に招いて学習会を実施。若手の太鼓に対する思いや太鼓体験があり、いい経験となった。



【谷口円】「100年後あなたもわたしもない日に」という、短歌とイラストの本を買いました。これがあるにも素敵で、読むのがもったいなくて読めません。こんな時はいつ読めばいいでしょう。



【安田拓也】恒例の楽塾旅行、今年は瀬戸内周遊。トラブルは毎年のごとくご愛嬌。新旧の顔が並ぶ心強いメンバーに支えられ、無事1泊2日の旅が終わりました。今から来年が楽しみです。



【西田吉志】6月のゆ〜とあいは音楽月間になりました。6月2日(土)に「第2回三線ライブ」、9日(土)に「第3回カラオケ大会」と好評を博したイベントが続きます。大盛況の予感。

「社会を知って」「社会に踏み出す」  
そんな L's College Plus の取り組みを  
紹介していきます。

vol.2

## 発見の連続

また、すでに1・2年生のエルカレ時代を共に過ごした仲でも新発見の連続です。ご家族からも「生まれた当時のことを初めて一緒に振り返ることができた」、「貴重な体験ができてよかった」との声をいただきました。

ただ1つ共通していたのは、『自分が生まれたことをみんな喜んでくれていたこと』でした。それは自分も友達も祝福されて生まれてきた、かけがえのない存在であること、そしてそれぞれ違う個性があることへの発見にもつながりました。

自己紹介の授業が終わり、大きな変化が生まれています。お互いかけがえのない存在であることが理解でき、それまではあだ名で呼び合っていたのが“〇〇さん”と「さん」付けで呼び合うようになってきました。まだまだ呼びなれないので、つついあだ名で呼んでしまうこともあります。少しずつ社会に踏み出していく準備ができたような気がしたエルカレの春でした。

# エルカレ通信 3からアルファ

社会で人と関わっていくためには、相手を大切にすることが、自分を大切にすることが必要です。でも、お互いを大切にすることが伝えるのはなかなか難しい。そこで、自分が生まれた時の時間や体重、名前の由来、生まれた時の気持ちなどを家族に聞いて、自己紹介する授業をやってみました。

発表では、「生まれた時に600gしかなく、人口呼吸器をつけて保育器に入っていた」、「生まれてからすぐに心臓の手術を受けていた」、「体が小さく生まれてきたので大きく・強く育ててほしいという願いをこめて名づけられた」、「誕生日が8月なので夏らしい海をイメージして名づけられた」、「生まれた時にはおじいちゃん・おばあちゃん、家族総出で見守っていた」、「お母さんの体調不良で生まれてすぐ別々の病院ですごした」などなど、2つとして同じエピソードはありませんでした。

発表した本人達も意外と自分が生まれた時の様子や名前の由来を知らないのがほとんど。

先月、前川喜平(元文部科学省事務次官)さんの「日本の現状と基礎教育保障の重要性」という講演を聞いた。教育機会確保法の施行により、これまで以上に日本国憲法を守ることや基本的人権を大切にすべきだと解した。たとえば日本国憲法には「すべて国民は法の下に平等である」とあるが、本当は「すべて人」はとあるべきで、日本に暮らす「すべての人」の基本的人権が保障されなければならない。しかし、ヘイトスピーチが憲法にある「表現の自由」を盾に自らの言動を正当化するという現実がある。

教育もまたすべての「人」の学ぶ権利を保障しなければならない。様々なことを自由に学び、考え、行動し、尊重しあえる関係は理想的だが、簡単にいかないのが人の世の常。教育が時の政治権力に影響されてはならないが、ヘイトスピーチの根底にある思想を抑制する政治の取り組みも必要ではないか。立派な教育を受けてきたはずの人のびとの国会での言動は「すべての人」に奉ずる者のものとはとても思えず、ため息がでる。

(寺本良弘)

# 皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちに皮算用していることを語っていくよ。



## ボクも定年になりました

# いい湯かげん

ボクも65歳になったので、5月の決算期末をもって(株)ナイス代表取締役を退任する。取締役には残留し、後任の寺嶋公典社長をバックアップする。また、薬局開設者やエル・チャレンジ代表理事はもう少し続けることにした。退任記念ということなのか『なび』の「いい湯かげん」を収録したエッセイ集が発行された。当人の知らないサブライズだったが、「遺稿集?はたまた、物書きまがいなのか?」と少々戸惑いもしたが、悪い気もしない。

振り返って、コラムを書き始めた動機は、「ボク」だった。当時、ボク達の社会運動という世界では、「ボクは…」の書き出しは珍しく、みんな「我々は…」と書き出した。だから、みんな「優等生」を装い、誤解を必要以上に恐れて、主訴を曖昧にした。その次は、「さん」だった。ボクは、一度も「安倍」と呼び捨てなかったし(「アベ」と記号化したことはあるが)、「橋下さん」と敬意を表した(市長と呼ぶのもできるだけ控えた)。とくに、仲間筋で「ハシシタ」なんてわざと読む人に、強烈な「差別の異臭」を感じた。

別にボクの「いい湯かげん」に感化されたわけじゃないだろうが、時間軸ではボクに続いて、同じ西成の赤井隆史さん(部落解放同盟大阪府連委員長)や摺木利幸さん(地域の社会福祉法人理事長)もコラムを書き始めた。ボクは、赤井さんは肩書きと風貌(失礼!)故に、また、摺木さんは理論家で堅物(これまた失礼!)故に、コラムを書くことでうんと優しくなるとほくそ笑んだ。住吉区の社会福祉法人理事長の村田進さんのコラムに出会った時は、その自然さに驚いて、繰り返し読んで、呑みに誘った。「ですます」調でなく「である」調にしたのは、ただ紙面の節約だけが理由で、ホントは「ですます」調で書きたかった。「ボク」で書き出して、「さん」と対称化してみると、ものの見方が「いい加減」になって、社会運動の「方針」というものが自分の中で収まりにくくなり、橋下さんや維新の「マッチョ」が気になった。前原さんの野望が頓挫し、枝野さんの立憲民主党が登場して、予期せぬ野党再編が動き出した。ご両人はそうでもないのだろうか、「取り巻き」に「いい加減さ」がないことも戸惑った。ボクは、FBだったかコラムだったかで、その昔の「迷走する民主党」を「い



富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

まの自分」に置き換えて、だからこそ目いっぱい腐している人々がいる、そこが案外と救いだと言ったことがある。その人々は、生活困窮者とか非正規労働者とか、ニートとか、はたまた中流、中間と呼ばれたり、自称したりしているが、何とかしたい自分と何ともならない自分の間を揺れ動いていると思う。なんだ、迷走する野党って自分と同じなんだと、目と目が合った時、「お前ならどうする?」と問いかけられれば、「恋は芽生えないが、俗に言う反転攻勢が始まる。」ボクは、そう期待する。「いい湯かげん」も年貢の納め時に秒読み状態だが、許されるかぎり書いていこうと思った。



[若松司] この時期、年に一度、妻の実家に田んぼのお手伝いに行く。風情も素気もない淡々とした作業だけど、その積み重ねでお米をいただいている。日本の農業っていつまでもつんだろうか。



[山村裕太] どうやら僕は自転車被盗まれる呪いがかかっているようです。今度は家の下でやられました。盗もうとしたら電流流れる自転車とか売ってないかな。

地域の縁を心でつなぐ

## 松崎こい 心の時間

残った人の「心」を育てて下さっているのです。

もちろん誰もが愛する人と別れたくはありません。それでも悲しみだけで、残りの人生を送っては「親様仏様」に申し訳ありません。私は悲しい別れから「人生は明日が分からない。奇跡のような一日一日を積み重ねている。いつ別れるかも知れない、終わるかも知れない。どうか一回きりの人生を大切にしてくれ」と教えて頂きました。

残った人生を大切に生きること、悲しみを乗り越える道を求めたい。そして、いつの日か亡き方に「おかげさま。ありがとう」とお礼を申せる日が来たとき、悲しみを乗り越えることができるのです。

松向寺 通法

先日、檀家のお嬢様が事故で亡くなり、お母様から「これまでお仏壇を大切にしてくださいのに、仏様は娘を守ってくれなかった」と詰められ、答えに窮しました。その夜、

「人は死んでも親様仏様となつて子を育てて下さる」と聞いたことを思い出しました。たとえお嬢様であつても、先に「親様仏様」となり、

### 猫も人も同じなんやなー

うちには猫が2匹いてる(一番多い時は5匹だった)。1匹はとても人懐っこいが、もう1匹は怖がりでなかなか近づいても来ない。その怖がりな猫は数年前に三女が拾ってきた。過去に姉2人もそれぞれ猫を拾ってきたので、自分にもその権利があると主張し、家族に了承された。

最近、三女に何でこの猫を拾ってきたか聞く機会があった。公園で人にビビりまくってたので、誰にも拾われなくて可哀そうと思ったのだという。三女はそれなりにかわいがってはいたのだが、現在は遠方で過ごしていて、残された家族が世話をするという、よくある話…。

ただ、その話を聞いてから、怖がりなので自分からは近づけないだろうと思い、こつちから近づいてみることにした。そうすると逃げて隠れるので、「どないせえ」って感じ。でも、めげずに食べてる時や寝てる時に近づくと、嫌がりつつも徐々に距離感が埋まってきた。相手を変えるのは自分であると再認識した。

## COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



ナビ編集長 寺嶋公典

## ゆーとあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆーとあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

ナビ 6月号 (vol.136)

発行日: 2018年 6月 1日 (創刊日: 2007年 1月 1日)

発行: 株式会社ナイス

住所: 大阪市西成区長橋 3-6-33

電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp

url: http://www.nice.ne.jp/

編集長: 寺嶋公典

編集: 沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、

寺島史規、西田吉志、安田拓也、山村裕太、

若松司 (あいうえお順)

イラスト: hidarimaki デザイン: 谷口円

facebook



facebook: <https://www.facebook.com/navi.nishinari/>